

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320（地域農業班）

022-275-8410（先進技術第一班）

022-275-8374（先進技術第二班）

FAX 022-275-0296（共通）

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>



株式会社マキシマファーム（松島町）

（大規模施設（栽培施設で「松島トマト」を栽培）

不測の事態への備えを！

国内での新型コロナウイルス感染症の発症確認から1年5カ月が経過しました。この間、新たな生活様式に慣れてきたとはいえ、私たち一人一人が、これまで以上の感染対策に取り組むとともに一日も早い収束を願うばかりです。

さて、このコロナ禍において改めて感じるのは、農業経営においては、万が一の時にも経営継続ができるよう、地域において関係者が連携し共助できる体制を構築することの重要性です。併せて、頻発する自然災害からの被害を最小限とするために、強風時の施設の強度はどうか、大雨時のほ場の排水は大丈夫か、などの点検を怠らないようにしたいものです。また、経営上の様々なリスクに対して農業保険（収入保険や農業共済）への加入など、不測の事態を想定し、日頃の備えを万全にしておくことが重要ではないでしょうか。

令和3年度は、「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」のスタートの年となります。計画では、「共創力強化～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～」のキャッチフレーズのもと、農業産出額を1,939億円（平成30年）から2,288億円（令和12年）へ、特に園芸産出額は333億円から670億円へ倍増することを目標に掲げられています。

このことから、普及センターでは、先進的園芸経営体に対する環境制御技術の向上、沿岸部の土地利用型経営体や内陸部の集落営農組織等への園芸作物導入に向けた支援を中心に、職員一丸となって活動を展開してまいりますので、よろしくお願いいたします。

仙台農業改良普及センター 所長 山村孝志

令和3年度 プロジェクト課題 (5課題)

NEW! 【新規】 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着

令和3年度～令和5年度

有限会社薬師農産 農事組合法人かすかわ (大郷町)

有限会社薬師農産と農事組合法人かすかわは、農地整備事業(370ha)が予定されている大郷町前川地区内の担い手となる土地利用型法人です。当地区では、農地整備後の高収益作物として、えだまめの導入が検討されており、その作付けを見据えて、両法人では令和3年度からえだまめをそれぞれ1haと0.6ha栽培することとしています。

普及センターでは、両法人に対して基本的な栽培技術の習得を支援するとともに、水稻及び大豆の作業と競合しない作型の導入を検討します。このことにより、土地利用型法人が取組み可能なえだまめの生産体系を確立し、高収益作物のモデル的な取組となるよう関係機関と連携して支援していきます。



栽培打合わせの様子

NEW! 【新規】 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

令和3年度～令和5年度

農事組合法人あきう生産組合 (仙台市)



新規園芸品目そらまめの定植

農事組合法人あきう生産組合は、秋保転作組合を母体に仙台市太白区秋保地区の地域農業の担い手組織として、平成28年に法人化され、現在、水稻12ha・大豆50ha・そば25haを栽培しています。当地区は排水不良等、土壌条件に恵まれない農地が多く、鳥獣被害も頻発しており、収量に影響を及ぼすなど農作物栽培においては条件不利地区になっています。

普及センターでは、同法人の水稻・大豆・そばの生産技術向上による収量及び品質の確保と、今後予想される労働力不足に対応するため、雇用による人材確保に向けた労務管理基盤の整備や雇用労働活用に向けた新規園芸品目の導入・定着を支援します。これらにより、地域の核となる担い手の経営力強化を図っていきます。

NEW! 【新規】 「シャインマスカット」の産地形成に向けた生産・販売力向上

令和3年度～令和4年度

JA新みやぎあさひなぶどう部会中核的農家5人 (富谷市・大和町・大郷町)

JA新みやぎあさひなぶどう部会は平成28年4月に設立され、部会員は増加傾向で令和3年3月時点で28名が加入しており、ほとんど「シャインマスカット」を栽培しています。普及センターでは、これまで幼木期の樹づくりに重きをおいた栽培管理法の習得を支援してきました。樹形が概ね完成した中核的農家は、本格的に出荷販売が始まることから、次のステップとして生産力及び販売力の向上が必要となっています。そこで、今年度は、収量増加と省力化が可能な栽培技術の習得を支援するほか、実需者のニーズに応じた商品づくりや販売方法の検討、産地PR等の支援を行っていきます。

生産・販売力の向上により、農家の生産意欲と所得が増加し、黒川地域の産地形成につながるよう、関係機関と連携しながら取り組んでいきます。



現地指導の様子



インマスカット

【継続】中山間地域を支える地域営農体制の構築

平成31年度～令和3年度

倉内・大針農村地域活性化委員会地域営農部会6人（仙台市）

仙台市青葉区の倉内・大針地区は、中山間地域特有の担い手不足や耕作放棄地・鳥獣被害の増加などの課題が山積しています。そこで、これらの課題に対応し、今後も地域の農地・農業を維持していくため、農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業（経営体育成型））による地域農業の再編に取り組んでいます。生産組織等の経営体が存在していない倉内・大針地区には、農地整備後に地域農業の中心となる担い手組織が必要不可欠なため、集落営農の法人組織づくりに取り組み、令和3年2月5日に農事組合法人うえすとファーム仙台が誕生しました。

令和3年度は、農地整備後に導入される園芸作物の品目の決定及び新たに設立された法人による持続的な営農体制構築の支援を行うこととしています。



長ねぎの定植作業風景

【継続】先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定

令和2年度～令和3年度

株式会社イグナルファーム大郷（大郷町）



定植前の苗を確認し、従業員と栽培管理の意見交換をする普及指導員

平成30年10月から大郷町大松沢地区でミニトマトの生産を開始した株式会社イグナルファーム大郷は、令和元年東日本台風により、施設が大きな被害を受けたものの、早期の復旧に尽力し、令和2年4月には生産を再開しました。安定経営のためには、収量の向上と作業の効率化などが課題となっていたことから普及センターでは、令和2年度からその解決に向けて、環境制御技術の習得や作業工程の確認・見直しについて助言を行ってきました。

令和3年度は、引き続き昨年度習得した技術の向上支援のほか、社員の作業精度の平準化・効率化など作業管理体制を整備するほか、他のトマト生産法人との情報交換の機会を設けるなどして、安定生産が図られるよう支援していきます。

トピックス

農事組合法人イーストカントリーが日本農業賞大賞を受賞

仙台市若林区の農事組合法人仙台イーストカントリーが、「第50回日本農業賞」個人経営の部において大賞及び農林水産大臣賞を受賞しました。

このたびの受賞は、東日本大震災後わずか2ヵ月半で米づくりを再開し、米にこだわった復興を成し遂げたことや、消費者目線での経営展開が高く評価されたことによるものです。

表彰式は、令和3年3月6日に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国各地を結んだオンライン方式で開催されました。

受賞を受け、農事組合法人仙台イーストカントリーの佐々木代表は、「震災前は50年、100年後も楽しい農業ができる法人でありたいと思ってやっていた。震災ですべてを失ってしまったが、もう一度、一からという気持ちで今日まで邁進してきた。農業のすばらしさを日本全国の方々に伝えながら、100年後を目指してこれからも頑張っていきたい」と話されていました。これから、ますますの御活躍を期待しています。



第49回および第50回 日本農業賞 表彰式